

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館 ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

●100万人参観者運動を!

'82年7月来館者数	3,348名
通算1カ月平均来館者数	4,099名
当月1日平均来館者数	124名
通算来館者数	299,201名

草の根総ぐるみの反核・反軍国・軍縮の選択に声をあげるときがきた

第五福竜丸平和協会評議員 吉田 嘉清

鈴木首相が、国連軍縮特別総会で演説したのをニューヨークタイムズは、(七月十日付)「日本、国連で再軍備を説明」との見出しをつけた記事を掲載した。その日は、三千万反核軍縮署名をはじめ、国連への署名提出日として設定した日だっただけにこの記事の事は、日本のNGOだけでなく、国際NGO、特にアメリカの友人たちにすぐひろまった。私は、前夜、鈴木演説を全文入手して、ホテルで検討していた一種の「恐れ」をいいたいだいで、この記事は、強い印象に残った。鈴木演説を情緒的だとか、なにも具体性がないとか、感性的な批判では、反核軍縮運動は、勝てない、ぞという感想をもった。鈴木演説は実によくねらわれている。日本の反核軍縮運動を研究している。われわれ

に必要なことは、「理性的」、「いかり」であると思った。鈴木演説のさわりは、ウルトラ反ソ一大核軍縮論者レーガン政権の見解と反核軍縮感情を考慮しながら、たくみに、「一致」さしているところである。即ち「力の均衡」をとるということ、「均衡」をつくり出すため「軍拡」をおし進めるということである。だから、NYタイムズでの見出しも、日本外務省スポークスマンの説明も鈴木演説の中心点をついている。対ソ「均衡」をつくりあげるため軍拡をする。だから、国連の平和維持能力の強化をとかれるとき、戦りつすら感じる。なぜなら自衛隊の海外派兵の地ならしの追求となるから。「南」への経済援助は、現状の資本、市場進出維持のための支配体制の確立、シーレーン

防衛体制と一体のものとなる。反ソ軍事ブロックの一翼をになう三海狭封鎖作戦の実戦化となる。

だから、ますますといつてよいだろう、超党派の選択のときが来ていることを痛感する。「均衡」論による軍拡か、軍縮による安全か。失業問題。一九三〇年代のときとどこか似てきている。草の根総ぐるみの超党派的に反核反軍国、軍縮の選択に声をあげるときがきている。与党のなかに、産業界にも、この声が強ければ、声援をおしまない人々も多くいることもはっきりしてきた。野党のなかに、学界に、労働界に「均衡」路線をとることを主張する人々もいることもはっきりしてきている。

ビザ問題は、その意味で現代史のドラマであった。三十年前のマッカーシズム——赤狩りの法的なものをもち出して来たのだ。マッカーシズムは、朝鮮戦争、民主主義義経殺にほかならなかった。核戦争へつき進む、狂気の道——レーガ△△めん下段へ▽

来館者の声から



テレビしかひびくした品物を見ていなかったが、ここへ来て実際にこの目でみて鳥はだがたち寒けがしたほどである。なぜこれまでにして実験などをくり返さなければいけないのか、考えさせられた。ここに来てもう一つ教えられた。

武田登美男

ぼくは、せんそうにきょうみをもち今までに、二〇しゆるいほどの本をよみました。今、こんなことがあっては、ちきゅうがぼくはつしてしまおうとおもっています。

江戸川区 川越康雄

今までに二回来ましたが感想を書く気になれませんでした。原爆はいやだと思ふ、戦争はいやだと思ふ。しかし声を出して

反対を叫ぶまで私の意識ははっきりしたものではないからです。館の展示物を見てみると、そんな自分を責めるように感じられ苦痛です。先日と今日、今までの感想ノートを残していたところどころ印象に残るものがありました。小学生の女の子の「ひどいと思う」というコトバや、学校の先生の教える立場になって自分の平和についての考えが観念的であったことに気づいたということ……。この学校の先生は、自分の知らない事柄・事実の多さを感じたと言っておられます。私も共感します。もやもやした私の意識をはっきりさせるためにも、事実を知らねばならないと思います。はっきりしない意識というものは何もしなければいつまでたってもはっきりしないでしょう。

＊

船体のみの展示と思ったら、それにまつわる資料や解説文があったので理解しやすかった。入場料が無料ということでの様に維持しているのかと思つた

が、都市でこの様な施設を運営していることは非常に素晴らしいことだと思ふ。

浦和西高 松本 淳

＊

一学期の特設授業での平和教育三年生になると、「第五福竜丸」の映画を見せませんが、やっと実物を見ることができました。この次の授業の時にはもっと子どもたちに話してやれます。

広島県 S・N

お知らせ

第二回久保山忌句会

▼期日 9月23日(木) 秋分の日

▼句会 午後一時から、江東区文化センター三階第二研修室(地下鉄東陽町駅下車、江東区役所裏)

▼会費 五百円

▼主催 新俳句人連盟・原爆

忌東京俳句大会実行委員会・第五福竜丸平和協会

編集後記

いつからか「草の根運動」ということばをよく耳にするようになった。「草の根」ということば、のもつ意味の中に含まれる人と人のつながりは結びつきが深いほどしっかりとした、平和の種を新たに植えつけることができるのでは。

▼今年も原水爆禁止世界大会が広島でひらかれる。一九五五年の歴史的な大会からもはや二七年になる。八月がくるたびに、あの日、を思い出し胸が痛まれてやまない被爆者、原水禁世界大会が開催されるたびに勇気づけられ、核兵器がこの世からなくなることを願って様々な運動にとりくんでおられる被爆者、これこそしっかりとした人と人のつながりが必要であろう。

▼ただ今、通算来館者数は二九万九千二〇一名、三〇万を突破するのも時間の問題である。咲き揃った夾竹桃の花も福竜丸もどんなに待ち望んでいることでしょうか。(も)

●核世界の先端 マーシャル諸島

七年目のロンゲラップ再訪

昨年九月、ビキニの西方百九十キロにあるロンゲラップ環礁を訪れた。七年前の一九七四年にはじめてこの島を訪れたから、私たちは核実験にさらされたマーシャルの人びとの苦しみを直接知ることになった。



<6>
文・写真
島田興生

きたが、ロンゲラップ島は相変わらず交通の不便な辺地で、直接的な情報が日本にもたらされることはほとんどないといってよかった。一九五四年三月一日のビキニの水爆実験の死の灰をまともに浴びたこの島では、甲状腺障害、白血病、ガンの発病などが続き、二十年後の七四年八月には、私たちの眼前で被ばく者の一人が死亡していた。微量（と言っても今日では高線量の部類に属する百七五ラド。）と言われた放射線による発病と生活体系の破壊は、現在の私たちの生活にも多くの警告と教訓を与えつづけている。

しかし、直接交流を欠いてきたこの七年の間に、「島の人たちはその後どうなっただろうか」という想いはつのる一方だった。

九月二十七日の夕刻、巡航船はロンゲラップの礁湖の中にすべるように入り、本島の沖合いに錨を下ろした。眼前に細長く横たわる豊かなヤシの緑につつまれた島を見たとき、ようやく着いたな、という安堵感より、七年前の風景が時間が止まったように、そのまま存在しているのに驚かされた。東京を出て五七日目の到着だった。

ンはそれを天下にかくそうとしていない。しかし、三十年前と違うのは、「狂気の道」にほかならぬ、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ、日本で反核軍縮の世論がもたらがっていることである。あやまちをくりかえさせないための力を、超党派的、国際的に統一をつくりあげていくなら、今や運動は、はねかえす力をそなえていることである。ケネディ大統領時代の司法長官ラムゼー・クラーク弁護士は、ビザ拒否問題は、核問題と表裏一体であり、日本だけの問題でなくアメリカ自体の問題であり、世界の問題であることを強調した。そして、われわれは「すばらしいスタートをきった、われわれは変えなければならぬ」といってきた。ワシントンポストは「誰が原水協を恐れるのか」という社説を出してビザ拒否の暴挙をやめよと説いた。民主主義とは異なる意見の尊重を認めることをぬきにはないと。

(原水爆禁止日本協議会副理事長)

『トビウオのぼうやはびょうきです』

絵本75冊を寄贈、売上は資料室募金にと

作家・いぬいとみこさん、画家・津田櫛冬さんが七月一日、出版社金の星社の方と共に展示館に来館され、絵本「トビウオのぼうやはびょうきです」七五冊が三者のご好意により平和協会に寄贈されました。



この絵本はいぬいさんがビキニ水爆実験直後に「時事新報」から、はじめて依頼された原稿だそうです。

『水爆実験のニュースのショックは大きくて、何も知らずに死の灰を浴びてしまったトビウオの子を主人公にして幼い子に原水爆の恐しさを訴える童話を書きたいと思ってしまったのです』と後書きにいぬいさんの言葉が添えられています。

反核の運動が高まる中、平和への祈りをこめて子どもたちにこの絵本を読んで聞かせてあげたいものです。

金の星社・七月新刊
「トビウオのぼうやはびょうきです」
いぬいさん・津田さんのサイン入りです。
定価九八〇円

「死の灰」も展示 西宮市で原爆展

被爆の実相を語り継ぐ、市民とともに、の願いをこめて今年も七月二〇日から一週間、西宮市で市長を先頭に原爆展がひらかれました。原水爆禁止西宮市協議会、教育委員会などが主催したもので、第五福竜丸平和協会も広島市とともに後援。今年には写真パネルのほか

死の灰、ガイガー検知器、乗組員の手記、航海日誌なども展示、死の灰の分析表、福竜丸の航跡図なども職員のみなさんの手で作られました。子ども向けの市民四千二百名余が見学、場内でおられた二万五千余羽の千羽鶴の一部と募金一万七千円余が協会に届けられました。

理事に猿橋・斎藤両氏を選任

平和協会第五〇回理事会ひらく

七月十五日、本郷の学士会館別館で平和協会の第五〇回理事会がひらかれ、82年原水爆禁止世界大会へむけての活動などを討議しました。

展示館見学者が増加し、関心が高まっているなかで、展示館の展示物をより充実させ、印象深いものにしていくこと、核兵器の放射線・放射能のもつ恐ろしさをより鮮明に印象づけるも

のとする、世界大会をはさんで広島・長崎・ビキニの一体となったパネル展示に工夫をこらすことなども討議、国際会議をはじめとする大会の代表に三宅会長以下四人を決定しました。

また、懸案であった理事の補強についても、猿橋勝子・斎藤鶴子両氏を選任。評議員には三井周二氏を選出しました。